

丸 之 内 通 信

水力發電工事現勢

3月初現在に於ける工事中水力發電所は51地點、計81萬KWに上つてゐるが其内譯は下表の通りである。

事業者名	發電所名	河川名	KW數
鐵道省	千手	信濃川	50,000
東京電燈	信濃川	同	12,400
同	小野川	長瀬川及小野川湖	26,200
群馬水電	原町	吾妻川	24,000
同	川中	同	12,400
東信電氣	新郷	阿賀野川	23,000
上毛電力	一ノ瀬	大瀧川	10,700
日本電力	黒部第三	黒部川	77,500
關西電力	瀬戸第二	馬瀬川	20,000
山陽水力	芹津	北股川	2,700
富士電力	大間	寸又川	16,000
東邦電力	川邊	飛驒川	24,100
同	下原	同	19,500
宇治川電	長殿	十津川	15,000
同	和田	天ノ川	2,000
大同電力	寢覺	木曾川	32,600
昭和電力	東勝原	打波	1,680
愛岐水力	今渡	同	17,000
矢作水力	和合	波合川	2,450
木曾川電	城山	木曾川	1,350
同	日義	同	1,200
木曾發電	伊那川第一	伊那川	4,640
日本拓業	第一	庄川	5,100
富山縣	有峰	眞川	5,900
同	和田川	和田川	24,000
同	大品山	同	650
同	眞川第二	同	18,000
伊那電鐵	阿知川第二	阿知川	4,080
手取川水力	白山	手取川	1,470
石川電氣	鶴來	七箇用水	800
中部電力	豊岡	天龍川	5,680
大日本電力	鳥海川第一	鳥海川	5,000
宮城縣	關	白石川	2,000
東北振興	蓬萊	阿武隈川	35,000

仁賀保組合	蛇場見	白雲川及赤川	970
新潟電力	伊南川	伊南川	17,300
盛岡電燈	磐	雫石川	3,150
磐城炭礦	鮫川	鮫川	2,600
電化工業	姫川第五	姫川	24,400
出雲電氣	新日原	吉賀川	6,770
廣島電氣	打梨	太田川	14,500
同	土居	同	8,000
兵庫縣	安積	掛保川	4,680
山口縣	第二	小瀬川	2,800
渡川水力	佐賀	渡川	10,000
伊豫電鐵	第三面河	面河川	6,900
九州水力	三芳	玖珠川	4,600
九州送電	塚原	耳川	50,000
熊本電氣	川邊川第一	川邊川	2,500
日本窒素	七瀧川第一	七瀧川	1,380
同	同第二	同	2,605
外工事中貯水池及調整池			有効貯水量立方メートル
大同電力	三浦貯水池	王瀧川	55,600,000
矢作水力	岩倉調整池	賣木川	364,400
日本産業	谷室澤調整池	谷室澤	52,880

東京電燈の建設大計畫

電力需要増加のため電力饑饉の到來が憂慮され各電力會社は電源の開発を急いでゐるが、百五十萬キロ以上の電力を有する東京電燈では毎年の需要増加七、八萬キロに備へ電力饑饉に陥らないやう左の通り建設計畫を樹て、差當り昭和十七、八年までに約五十七萬キロの水力發電所を建設し、その後利根川水系八十萬キロの水力を開發することゝなつた、その中には猪苗代湖の湖面低下や沼澤沼のポンピング・アップの計畫もあり、此等の建設工事のため東電では測量を急ぐと共に工事施行の認可を官廳に督促する一方、最近不足勝ちの折衝者の募集に努めてゐる、なほその建設費は毎年發電所七萬キロ、一キロ當り三百圓として約二千萬圓、其他變電所配電線等に約一千萬圓合計約三千萬圓で、建設計畫の大意は左の通り。

◇信濃川發電所十七萬キロは目下建設中で昭和十四年に半分、十六年に半分竣工

丸 之 内 通 信

◇小野川發電所二萬六千キロも建設中で本年末竣工
 ◇富士川水系下山發電所一萬三千キロは工事施行認可あり次第建設に着手、來年中に竣工の豫定
 ◇秋元發電所(九萬四千キロ)は建設認可を得てゐないが、その半分を本年中に着手、十四年中に竣工の豫定
 ◇猪苗代湖發電所(十萬キロ)の湖面低下は目下出願中であるが許可があれば、七尺五寸の湖面低下で年平均二百個の貯水増量となり、一萬キロ餘の發電力を増加する。
 ◇只見川水系發電所(十六萬キロ)は一里半のトンネル二本を設けるため工事期間に五年間を要するので目下内務省に廻つてゐる出願書の認可あり次第本年中或は來年中に工事に着手する、なほ只見川水系には右の外廿萬キロの電源がある。
 ◇野澤發電所に關聯する沼澤沼ポンピング・アップは既に出願中であり、許可があれば簡単な工事である。
 ◇大井川の上流大井川發電所(十萬キロ)は目下認可申請して測量中であるが、三百尺のコンクリート堰堤を建設するので工事期間に四五年を要し、十七年末完成の豫定。
 右は十七、八年末迄に竣工し、發電力合計五十七萬キロで十七八年以後は利根川水系尾瀬四十萬キロ、その他利根川水系四十萬キロ合計八十萬キロを開發

する豫定で目下測量中であると。

鴨綠江水電愈々設立

鴨綠江水力開發について豫て日滿關係官廳間に打合せ中であつたが、愈々今回下記大綱の決定を見、會社の設立も急速に實現することゝなつた。

(1) 朝鮮内に朝鮮鴨綠江水力電氣株式會社を、滿洲國內に滿洲鴨綠江水力發電株式會社を設立し各會社は兩社間に共同經營とする。

(2) 1社の資本金5千萬圓、2社合して1億圓と爲し滿洲國政府に於て5千萬圓、朝鮮側民間より5千萬圓出資し、各社共5千萬圓の資本金を鮮滿兩者2.5千萬圓宛の合資とする。

(3) 開發電力は100萬乃至150萬KW

(4) 會社監督に關しては滿洲國及朝鮮總督府當局の協定に於て行ふ。會社經營は會社相互の約定に基き定款を作成す。

尙同社第1期事業として出力55萬KWを開發する筈である。朝鮮民間側投資は東拓及野口財團を主體としたものである。

雨龍電力着工

北海道雨龍川上流朱鞠内に水利權を持つ雨龍電力では愈々今回同地點に於て7萬K.W.の發電所を建設する事になつた。此發電所は該地點に大堰堤を造つて雨龍川を堰止め直径約2里周圍約7里の貯水池を築造するもので3年後に完成の豫定であると。

土木工事畫報 第十三卷 第四號 定價金七拾錢 (稅二錢)		每月一回一日發行 一ヶ年十二册發行
普通購讀料 壹部 七十錢 稅二錢 參ヶ月 貳圓 稅共 六ヶ月 四圓 同 一ヶ年 八圓 同 外國一部 稅 共 七十八錢	昭和十二年 三月廿六日印刷納本 昭和十二年 四月 一日發行 編輯兼印刷發行人 岡崎保吉 東京市豐島區長崎仲町二丁目三六二九 印刷所 共同印刷株式會社 東京市小石川區久堅町百八番地	關西支局 大阪市浪速區惠美須町 2丁目13 工事畫報社支局 電話 戎 86 番
注文は總て前金、送金は必ず振替貯金にて、東京七〇貳六五番宛拂込の事、但し六ヶ月以上の申込は御希望により集金郵便を差出しします。	發行所 工事畫報社 東京市麴町區丸ノ内三丁目六 電話 丸ノ内二六三三番 振替 東京七〇貳六五番	大賣捌所 東京堂・東海堂 大東館・北隆館



資社
合會

東京衡機製造所

代表社員 工學博士 伊東久米藏

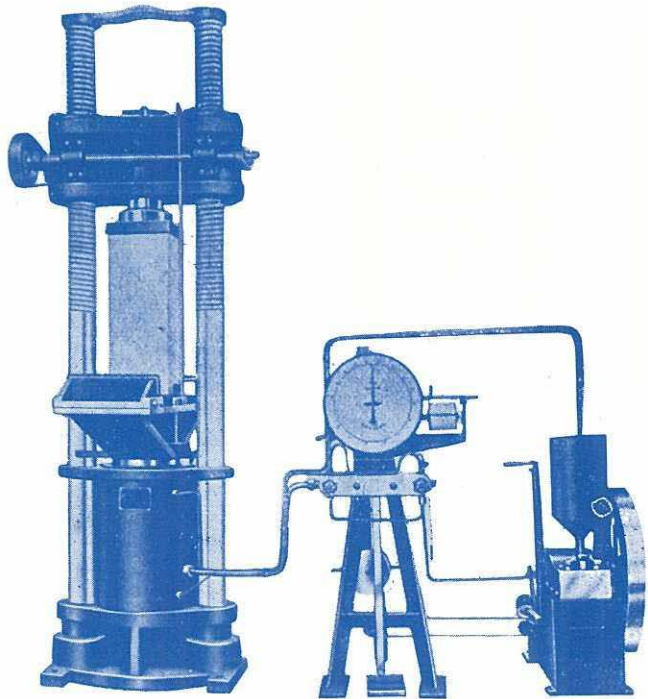
本店 東京市麴町區丸ノ内二丁目六番地
工場 東京市品川區北品川四丁目五一六番地

電話丸ノ内(23)一七八七番 一九二四番
電話高輪(44)一八八五番

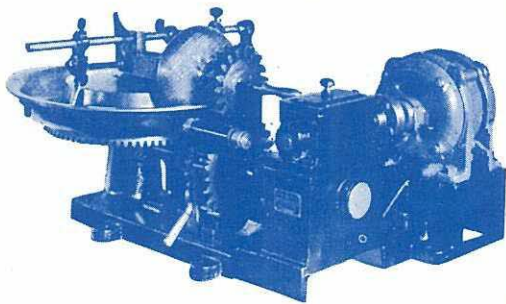
營業科目

各種動力計	各種材料試驗機	道路材料試驗機	セメント及コンクリート試驗機	試驗機
-------	---------	---------	----------------	-----

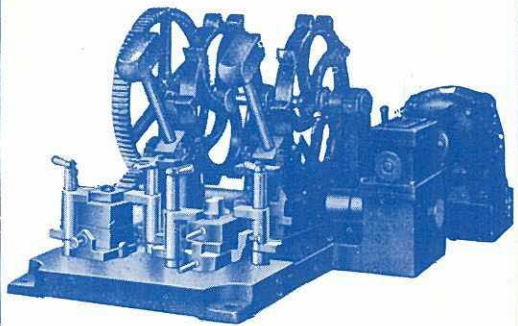
專賣特許東京衡機自動秤	鐵道及鑛山用貨車掛衡橋	衡器及天秤類一般	衡器
-------------	-------------	----------	----



東京衡機「ムスラー」型三百磅耐壓及彎曲試驗機
特許東京衡機式改良振子動力計附



商工省標準「セメント混合機」
(ムダイシアリツクシユメツター型)



商工省標準鐵機(←メマルテンヌ型)

THE "KOJIGAHO"
 AN ILLUSTRATED CONSTRUCTION REVIEW
 VOL. 13, No. 4
 Published Monthly by the Kojo-Gaho-sha
 Tokyo Japan

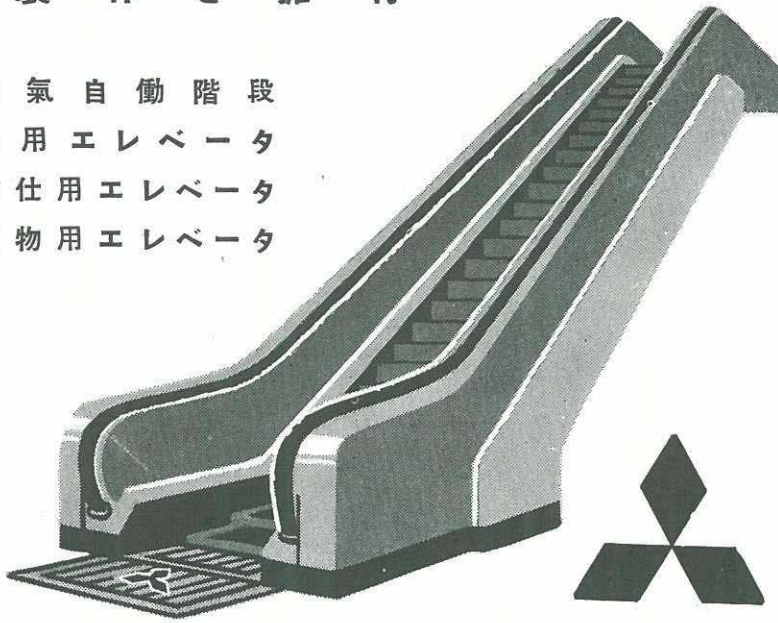
大正十四年七月二十八日第三種郵便物認可
 昭和十二年四月一日發行(每月一回發行)

土木
 建築
 工事
 畫報
 第十三卷
 第四號

三菱 電氣自動階段

製作と据付

電氣自動階段
 乗用エレベータ
 給仕用エレベータ
 貨物用エレベータ



一手販賣店

三菱商事株式会社

機械部 東京丸ノ内・支部 支店 出張所各地

三菱電機株式会社

本店 東京丸ノ内 製作所 神戸・名古屋・長崎

定價金七十錢 送料二錢

三菱倉庫株式会社